

「レインディアの鼻」

桜木想香

それは、みんなとは違うとうつむいていた
ピカピカ光る優しい誇り

CAST

- ♀ 仲井戸 レミ ……1年A組。演劇部。アイリの中学の後輩。脚本を書いた。
- ♂ 山田 敬太 ……1年B組。演劇部。アイリの中学の後輩。
- ♀ 玉田 琥珀 ……2年A組。演劇部部长。
- ♂ 津国 雄飛 ……2年D組。演劇部。典子と付き合っている。
- ♀ 長島 深幸 ……2年E組。演劇部。
- ♀ 久保寺 典子 ……2年F組。演劇部。メイク厨。本名はのりこ。
- ♀ 松尾 絵里奈 ……2年F組。演劇部副部长。演出初挑戦。
- ♂ 石見 冬馬 ……1年B組。演劇部。舞台監督。
- ♀ 桐島 歩 ……1年C組。演劇部。雄飛が好き。将棋はできない。
- ♀ 渋沢 桂 ……1年A組。演劇部。将棋はできない。
- ♀ 石川 香 ……1年A組。演劇部。駒の動かし方くらいは知ってる。
- ♀ 伊澄 ゆかり ……3年A組。元演劇部部长。大阪の芸大に進学。
- ♀ 滝口 若菜 ……2年A組。陸上部の短距離選手。県大会9位。
- (加九 アイリ ……2年D組。元演劇部。脚本演出。10月末に退部した。)
- (青海 真凜 ……3年A組。元演劇部副部长。演出。旅館に就職。)
- (小守 俊平 ……3年D組。元演劇部。照明や大道具。演劇系の専門に進学。)

神奈川県立横南高校。横浜市内の丘の上にある。

来年度より、県立浜北高校と合併し新設校になるため、最後の1年である。

「雨上がりには好きだといって」シリーズは、時代を2013年に設定しています。
が、実際の史実・時代状況とは違う箇所もあります。

「赤鼻のルドルフ」

原作 「Rudolph the red-nose reindeer」
脚本 仲井戸レミ

- ♂ ロバート・メイ（雄飛） 通信販売社に勤めるコピーライター。
♀ エヴリン（典子） ロバートの妻
♀ バーバラ（香） ロバートとエヴリンの娘
♀ ルドルフ（レミ） 赤鼻のトナカイ

【サンタのソリを引く8頭のトナカイ】（通信販売者の社員・いじめっ子）

- ♂ ダッシュヤー（冬馬） 先頭を走るトナカイ
♀ ダンサー（桂） 2番目を走るトナカイ
♀ プランサー（歩）
♀ ヴイクセン（琥珀）
♂ コメット（絵里奈）
♂ キューピッド（若菜）
♂ ドンダー（ゆかり）
♂ ブリッツェン（深幸）
♂ 老人／上司／ニコラウス（敬太） 隠居したサンタクロース

12月。演劇部の公演会場。演劇部員たちが発声練習をしている。
既に衣装の人もいれば、稽古着の人や、制服の人など様々。

琥珀 発声終わります。

絵里奈 はい、じゃあもうあと15分後にはお客さん入ってきて20分後には開演します。準備がまだの人は急いでください。琥珀何かある？

琥珀 えっ、えっと、もうあと15分後にはお客さん入ってきて20分後にそれ今言った。

典子 もうわかってる。

琥珀 ごめん。

絵里奈 他何かある人いる？

深幸 円陣は？

典子 え今？

雄飛 直前でよくない？

絵里奈 えどうする？

琥珀 えーあー、じゃあ、

若菜 いやでも一回解散して集まるなら今の方が良いんじゃない？

典子 てか待ってまだメイク全然終わってないから早く準備したい。

ゆかり まあ今ちやっちゃんとやって準備しよう！

レミ あでもまだ男子が来てないです。

雄飛 あそうじゃん。

典子 じゃあまた後でね！

深幸 各自プリセット確認してね！

それぞれ各々、裏に準備しにいったり、体をほぐしたり、散っていく。

琥珀 はい、開場前にまた集まってください。

雄飛 何分前？

ゆかり 5分前にしよう！20分に集まって円陣するよ！

絵里奈 ちよつと1年生！

歩・香・桂 はい！

歩 あゆみです！

香 かおりです！

桂 かつらです。

レミ うわーすっごい説明ゼリフ。(稽古着に大きくレミと書いてある)

歩・香・桂 3人あわせて、

絵里奈 てゆーか男子2人は何やってんの？

香 わかんないです。

歩 うちのクラス終わった時もうB組終わってました。

レミ 敬太の荷物があります！

桂
絵里奈
桂
絵里奈
レミ
絵里奈

あ多分呼び込みしてると思っています。
さすがにもう戻っておいでってLINEして。
はい。ウチ冬馬にかけます。
別行動してるかもだから両方連絡して。
じゃあ私敬太にかけます。
てか冬馬は舞台監督なんだから遅刻してくるなよ！

2人、電話をかける。若菜は緊張した面持ちでいる。
絵里奈は深幸とシーバーチェックをしている。

若菜
琥珀
若菜
琥珀
若菜
琥珀
若菜
琥珀
若菜

あー緊張してきた。
若菜も緊張するんだ。
そりや緊張するよ。初舞台だよ。
でも陸上部も大会とかあるから慣れてるかなって。
いやいや全然わけが違う。それとこれとは別々。
そうなの？
っしや！がんばるぞー！
足気をつけてね。
わかってる。

典子が戻ってきて、

典子
絵里奈
典子
絵里奈
典子
絵里奈
典子
絵里奈
典子
絵里奈
典子
絵里奈

絵里奈ごめん！衣装の靴教室に忘れた！取ってきて！
えなんで自分で行ってよ！
待って無理時間ない！
ちよつともーどこ？
私のロッカーの中。空ければわかる。
鍵は？
0925！
りよ！

絵里奈出ていく。

典子
歩
典子
香
典子
歩
典子
典子
歩
典子

え、ねえ待ってみんなそれでメイク終わり？
え、はい。
ちよつと待ってよ全然意味ないじゃん。トナカイなんだからもつとち
やんとガッツリやろうよ。
あ私バーバラです。
そうだけど！あーでも、うーん、はい、わかった。とりあえずいい。
でもトナカイも今からみんな合わせてメイクしてる時間ないです。
あーはいはいそうですか。

ゆかり

まあまあテンコ！流石に今言われてもさ！ね！それにほらトナカイだけじゃなくて人間役もやるわけだしあんまりトナカイぼくしちゃうと逆に人間が不自然になっちゃうしさ！

典子

はい。すいません。

ゆかり

まあでもトナカイチームで今からでもできることやってみよっか！

典子、行ってしまう。歩、「何あいつ！こみたいな身振り。」

ゆかり

ふーちゃんもやんないの。

歩

だつて。

ゆかり

わかるよ。わかるから。

香

ゆかり先輩ありがとうございます。

桂

いやていうかマジでだったら言っとけーって話じゃないですか？

ゆかり

そうだねえ。

香

文化祭終わってから変わったよね。テンコ先輩。

歩

違うよ雄飛先輩と付き合ってからだよ。

ゆかり

そうなんだねえ。

香

付き合うなどは言わないですけどてかさんなこと言う権利ないですし。

歩

でも公私混同はマジでやめてほしい。

ゆかり

(喰らつて) すいません……。

歩

えなんでゆかり先輩が謝るんですか。

ゆかり

いえ、私も過去に似たような前歴があるので……。

香

まあ、ゆかり先輩は直接被害被ってる訳じゃないので、

桂

いやでもそれで青ちゃん先輩イライラしたのは直接の被害じゃね？

ゆかり

テンコ共々代表して謝ります！

歩

てか聞いた？テンコ先輩のロッカーの鍵の番号。

桂

えなになに。

歩

0925。

桂

ハアアアアン察し……。

ゆかり

トナカイチームちよつと集まっつてー！

トナカイチームがぞろぞろ集まる。敬太と冬馬が駆け込んでくる。

2人

おはようございます！

ゆかり

あー来た！おはよー！

冬馬

遅れてすいません！

敬太

お客さん呼び込みしました！

深幸

2人とも急いで発声して準備してください！

冬馬

もう呼び込みで発声バッチリです！

桂

あと10分ちよいで円陣して開場だよ。

レミ

冬馬。舞台監督なんだからちゃんと早く来なだつて。

冬馬
レミ
冬馬
琥珀

誰が？
絵里奈先輩。
へーい。
呼び込みしてくれてありがとね！

男子2人は準備をする。

ゆかり
琥珀
香
レミ
若菜
レミ
若菜
深幸
琥珀
桂
琥珀
歩

あのね、テンコがね、「先ほどの通りです」ってことなんだけど。
え今ですか？
先輩そのくんだりもうやりました。
さすがゆかり先輩、割愛天才。
どういうこと？
お客さんには既にわかっている説明を省いたんです。全国大会経験者はやっぱ違うな。
それ関係ある？
でもメイクするにしても演出の許可もらってからじゃない？
絵里奈は？
教室にテンコ先輩の靴取りに行きました。
なんで？
普通自分で取りに行きますよね。

絵里奈、戻ってくる。

深幸
若菜
絵里奈
歩
歩
絵里奈
歩
絵里奈
琥珀
若菜
レミ
ゆかり
若菜
絵里奈
深幸
若菜

あ戻ってきた。
おかえりー。
ふーちゃん当パンと感想用紙どうした？
あごめんなさい！忘れてました！
印刷はしてあるの？
印刷はしてあります。
外に青ちゃん先輩と俊平先輩いるから持ってって！
はい！
何してんの。
あのね実はさっきテンコが
待って！私もやりたい！かくかくしかじか！
おお！
え？鹿？トナカイじゃなくて？
おっと先輩何言ってるんですか。
ねえもうほんとにさあなんで今言うのお。
演出的にはどう？
や。いい。今もうそんな時間じゃない。
でもさ、そういう小さいことの積み重ねを妥協してたから地区落ちし

たんじゃないの？

若菜

って、加九ちゃん言ってたよ！

絵里奈

琥珀！と1年生達でメイク考えてもらってもいい？

琥珀

わかった。

絵里奈

(靴を) テンコに渡してくる。

ゆかり

じゃあどうしよつか。

話しあう人たちから深幸が抜け、行こうとする絵里奈を止める。

(男子はあめんぼが終わったらメイク組に合流する)

深幸

大丈夫？

絵里奈

いやマジなんなの？演劇部じゃない人が余計な口出しすんなよ。

深幸

それ関係ないよ。

絵里奈

なんだよアイリが言ってたって。

深幸

でもその通りだからさ。

絵里奈

でもそれをああやって演劇部じゃない人に言ってるってことでしょ。

深幸

そうだね。

絵里奈

最悪じゃん。私たち悪者扱いでしょ。

深幸

そこまでは言ってないよ。

絵里奈

いや言ってるでしょ。

深幸

それは解釈歪めすぎ。

絵里奈

なんで琥珀は若菜を連れてきたわけ？

深幸

なんか若菜かららしいよ。怪我して走れないから演劇部見学していい？って。

絵里奈

てか私琥珀に頼んだのにまたゆかり先輩が仕切ってるじゃん。

深幸

あーほんとだ。言っとく。

絵里奈

ホントになんで琥珀が部長なんだろう。ウチらでよかったじゃんね。

深幸

そうは思わないかな。

絵里奈

なんで。

深幸

琥珀もがんばってるよ。

絵里奈

そうだけどさあ。

深幸

ゆかり先輩！

深幸は話を切り上げてゆかりの方へ行ってしまう。絵里奈は典子の所へ。

深幸はゆかりをトナカイの輪から離して

深幸

あの、すいません、頼まれたの琥珀なんです。

ゆかり

あ、うん。ごめんね。

深幸

先輩達が決めたんですよね。琥珀を部長にするって。

ゆかり

うん。

深幸

だったらもう少し信じて見守ってあげてください。

ゆかり

そうだね、ごめん気をつけるね。まあ今日で終わりだしもういなくなるから！

深幸

いや、ほんとに先輩いてくれてよかったって思ってますから。すごい助けられていますし。

ゆかり

わかってるわかってる！（トナカイの輪に戻り）どう？決まった？

琥珀

（スマホの画面を見せて）こういうのやってみようと思うんですけど。

ゆかり

いいじゃん！これやってみようよ！

桂

したら道具とってきます。

桂と香、控室に行く。

深幸

冬馬、あと〇分で開場だからね！

冬馬

はい。

深幸

わかっているとと思うけどそれまでに暗転チェックして円陣するんだよ！

冬馬

了解です。

敬太

したら今チェックしちゃえば？

冬馬

確かに。

歩戻ってくる。

歩

冬馬、俊平先輩が呼んでる！

冬馬

わかった。今行く。

敬太

え暗転チェックするんじゃないの？

冬馬

え待ってでも、俊平先輩急ぎ？

歩

急ぎってわけじゃなさそうだけど、開場前に来てって。

冬馬

暗転チェック終わったら行くって言っといて。

レミ

でもお客さんもう外並んでない？

歩

並んでる。

レミ

したら混まないうちに行ったほうがいいんじゃない？

冬馬

わかった。

敬太

暗転チェックなんか30秒で終わるだろ！

冬馬

ああわかったよ！はい暗転チェックしまーす！暗転してください！

暗転。

琥珀のスマホが光っている。

ゆかり

琥珀スマホ！

琥珀

ごめんなさい！

控室。

典子がメイクをしている。雄飛がプレゼントの包みを持ってくる。

雄飛 はい、これ。
典子 なに。
雄飛 クリスマスプレゼント。
典子 えー今？
雄飛 いや、終わった後だとバタバタして忘れそうだから忘れないうちに。
典子 ありがとう。
雄飛 がんばろうね。
典子 うん。

雄飛、典子とスキンシップした後、離れる。絵里奈が見ている、

絵里奈 はい、靴。
典子 ありがとう！
絵里奈 よかったじゃん。
典子 いやだめだ。終わったわ。
絵里奈 えなんで。くれたんでしょ？プレゼント。
典子 今渡したってことは後で2人になる気ないってことでしょ。
絵里奈 いやそれはまだわからないじゃん。
典子 いやもうわかるよ。これ本番終わったら別れよって言われるって。
絵里奈 いやでも、だったらそもそもプレゼントすらくれないでしょ。
典子 本番終わるまでは余計なダメージ与えないようにってことでしょ。
絵里奈 そういうこと？
典子 その気遣いが逆にキツイわ。別れたいならとつとつと伝えてくれ。
絵里奈 ……とりあえず、いったん忘れて。本番はやる。
典子 わかっている。

典子 あー死にてえ。
絵里奈 あーもー。

桂と香が来てメイク道具を漁る。

絵里奈 決まった？
桂 とりあえずやってみます。
絵里奈 ありがとう。私も行く。

桂と絵里奈はみんなの元へ戻っていく。香、絵里奈の隣に座り見つめる。

冬馬 (声) はい暗転チェックしまーす！暗転してください！
典子 何？
香 どうしてテンコ先輩は、みんなと違うの？

典子

え？

香

どうしてテニコ先輩は、みんなと違うの？

典子

どうして……？

香

なんでもないです。

香、行ってしまう。

典子

それは……私がこんな人間だから、私がダメな人間だから。

冬馬

(声) はい OK です！

典子、出ていく。明るくなって、公演会場。

絵里奈

はいじゃあメイクしよう！

冬馬

ちよつと外行つてきます！

冬馬、出ていく。皆メイクし始める。敬太はあめんぼの歌をやる。
あめんぼが終わり、敬太は踊り出す。

若菜

いやーやっぱ敬太くんのなにぬねのいいわ。

敬太

えーどういことつすか？

若菜

いやホント似てるんだよ加九ちゃんに。あとドレミちゃんも。

レミ

えっ私も？

若菜

やっぱね、さすが加九ちゃんの中学の後輩だけあるよ。なにぬねの

レミ

も似てるし、脚本も書けるし。加九ちゃんの後継者って感じだね。

敬太

いやいや全然そんなことないですから！

レミ

そうだから！アイリ先輩来るって！

敬太

ほんと！

敬太

おう。下駄箱の前で捕まえて念押ししといた。

レミ

はは、やっぱ帰るつもりだったんだ。

敬太

ちよつとコンビニ行つて戻つてくるって言つてたし。

レミ

本当かなー。

若菜

加九ちゃん？来るって言つてたよ！なめこちゃんにも帰らせないよう

レミ

にちゃんと捕まえてきてつて言つておいたし。

敬太

なめこちゃん？

レミ

あうちのクラスの。先月まで保健室登校してて、そこでアイリ先輩と

敬太

一緒だったんだつて。

レミ

なるほど。

敬太

夏休み明けからずっと教室来てなかったんだけど今月から教室来るよ

レミ

うになつて、ちよつと話したんだけど、アイリ先輩と話して教室行こ

レミ

うって思つたんだつて。
あー私と同じだ。

若菜 なになにどゆこと。
レミ いや私も中学の時色々あって学校行ってなくて、放課後登校して部活
若菜 だけ出るみたいな時期があったんですけど。
えーそうだったんだ。

香が緊張してガチガチになっている。典子が来る。

典子 わ！

香 わ！なんですか！

典子 緊張してるの？

桂 香は加九先輩恐怖症でーす！

香 ちよつと言ひ方！

桂 だって加九先輩来るって知ってビビってるんでしょ！

香 うー！

典子 アイリ観にくるの？

敬太 観に来ますよ！

典子 まじかーうっわきっつ！。ね。

香 あ……。

絵里奈 メイク手伝えよ！

絵里奈

あんたがやれって言ったからみんな今メイクしてんの！人に靴取りに行かせて自分の準備終わって何してんだよ！きつつとか言ってるじゃねえよ！

ゆかり

まあまあ絵里奈落ち着いてー言い過ぎ言い過ぎー！

典子

メイクまだの人誰。

典子、メイクがまだの人の手伝いをする。敬太は踊りながら香を盛り上げる。

香

あっちいって。

敬太

わかったよ！

ゆかり

あはははは！

絵里奈

絵里奈は動けずにいる。雄飛、絵里奈のそばに行き鼓舞する。続いて香のそばに行き同じように鼓舞する。

雄飛

正直！俺も加九が来るの怖い！

香

……。

典子

(絵里奈に) ……ごめん。

レミ
私はいてほしい！
ミートウー。

敬太
ごめん。私は正直、どの面下げて観にくんの？って思ってる。

深幸
てかもう、そんなのどっちだっていいんですけど！俺たちは、アイリ先輩に観て欲しいからいい作品にしたいし、アイリ先輩のこと嫌ってても恨んでてもいいんですけど、どっちにしたってアイリ先輩見返したいならいい作品作るべきじゃないですか？

敬太
なんちゃってー！

ゆかり
敬太ありがとう。

敬太
うっす。

冬馬が戻ってくる。

冬馬
はいみんなちゅーもーく！

冬馬
えー本番前ではありますが、俊平先輩より、こちらを受け賜りました。

冬馬、サクマドロップスの缶を取り出す。一同歓喜。

冬馬
はい！はーい！なのでこれからは俺が、飴あげる係に任命されました
ので、みんなに飴あげたいと思います！早速欲しい人！

〇〇
(何人か反応)

雄飛
もう本番前だよ！

典子
まあいいじゃん。開演までに食べきれば。

ゆかり
ていうかこのタイミングで渡す俊平が悪いよ。

レミ
私もそう思います。

絵里奈
私もそう思う。

ゆかり
全部俊平のせいだよ！

絵里奈
俊平先輩のせいだよ！

深幸
冬馬、時間！

冬馬
はい！円陣しまーす！

歩
てか冬馬トナカイメイクしてないじゃん。

桂
いい円陣終わったら袖で私がする。

みんな集まって円陣を組む。

・
え、誰？

琥珀
え、絵里奈じゃないの？

絵里奈
いや琥珀でしょ。部長なんだから。

琥珀

えでも。

雄飛

じゃあ俺が。

敬太

じゃあ俺が。

冬馬

じゃあ俺が。

何人か

俺が俺が俺が。

雄飛

(やっつけない人達に) おいやれよ!

深幸

時間ないから早く!

絵里奈

はいはいはいはい! (手短かに発破をかけるコメントをする)

ゆかり

はい次琥珀!

琥珀

えーうちはいいですよ!

深幸

いいから。

琥珀

やーほんとにいいって。

若菜

ほら早く!

琥珀

私……ゆかり先輩みたいに全然みんなのことまとめたりできないし、アイリとかどれみちゃんみたいに脚本も書けないし、絵里奈みたいにテキパキ指示したりもできないし、深幸みたいに芝居も上手く無いし、テンコみたいにメイクも出来ないし、雄飛みたいに釘とか打てないし、歩ちゃんみたいにポスター描けないし、桂ちゃんみたいに衣装つくったりできないし、香ちゃんみたいに小道具つくったりもできないし、冬馬さんと敬太くんみたいに呼び込みしたりとか気が利くこともできないし、音響のことも照明のこともわからないし、若菜みたいに早く走れないし、

若菜

最後おかしくない?

ホントみんなのことすごいって思ってた、演劇って、みんながいなくてできないものだなんてやっぱ思うし、だから、みんなでちゃんとやりたいて思うし、今ここで言うことじゃ無いかも知れないけど、私は、やっぱりアイリもいてほしいって思ってる。

雄飛

うん今言うことじゃねえ。

琥珀

それじゃ、サンタクローズ、掛け声かけて。

敬太

ええ俺ですか?

深幸

ほら早く!

敬太

はい。それではいきます。

敬太

さあ、出発だ! 世界中の子供たちのところへ! メリークリスマス! メリークリスマス!

みんな

みんなで気合を入れる。

冬馬

そしたらもう開場します! スタンバイお願いします!

琥珀

青ちゃん先輩、俊平先輩、受付お願いします!

みんな
ゆかり
冬馬

お願いします！
よろしく〜！
音響さん照明さん、客入れ状態にしてください！

それぞれ袖にハケスタンバイする。

開場 BGM のクリスマス曲が流れる。

冬馬

開場お願いします！

冬馬もハケる。この先、各袖の中。それぞれの5分間。

- ・若菜は陸上部のレース前ごとく闘志を燃やしている。
- ・ゆかりと絵里奈は琥珀に寄り添い、円陣の言葉を称える。
- ・桂は冬馬にトナカイメイクをしてあげる。
- ・本番前のドキドキ。暗い袖の雰囲気。距離の近い男女。恋焦がれる役柄。
- ・吊り橋効果で恋に落ちるには、十分な条件が揃っている。
- ・雄飛の横に典子が来る。並ぶ2人。言葉もなく、ただ並んでいる。
- ・香が来て、2人の間に入る。家族3人で寄りそう。
- ・香が抜け、雄飛と典子の隙間が残る。2人はそのまま、ただ並んでいる。
- ・その様子を遠くから歩が見ている。
- ・敬太、ネクタイがうまくできず、レミに締めてもらう。
- ・それが一瞬、15年後くらいの2人の姿を想起させられたらしいな。
- ・本場に付き合っていないのかよ。現在互いに恋愛感情は皆無である。
- ・冬馬が1分前の合図を出しつつ、気合を入れて回る。
- ・シーバーで客席状況を確認、閉場を指示。袖の確認をし、開演 Cue を出す。

クリスマススイブの夜。人里離れた山奥に佇む一軒の小屋。

老人

やあやあ、皆さん。遠い所からわざわざようこそおいでくださいました。寒かったでしょう。ささ、どうぞ楽にしてください。なんにもお構いできませんが、ゆっくりしてってください。おや、暖炉の火が弱くなつてますね。薪をくべましょう。さあみなさん、よく見てください。ほら。

老人は暖炉に薪をくべる。すると少しだけ、暖かくなったような気がする。

老人

ちょうどねえ、ジャガイモのポタージュをあたたためていたところなんですよ。よかったら召し上がりますか？いやいや、遠慮しないで。どうぞどうぞ。あつたまりですよ。ああでも、いきなり口にしたら舌を火傷してしまいますから。ふーふーして、ゆっくり召し上がってくださいね。

外では雪が吹き付ける音がして、窓もカタカタと揺れている。

老人

それにしても大雪ですねえ。これからもっと強く降るらしいですよ。吹雪になったらそれこそ、ほんの少し先さえ見えなくなりますからねえ。

老人

……え？こんな日にサンタクロースはどうやってプレゼントを配るんだって？はっはっは。心配には及びませんよ。なんてったってルドルフがいますから。……おや、ルドルフをご存知ない？いやいやあなたもご存知のはずですなんてったって世界で一番有名なトナカイですから。サンタクロースが、トナカイにソリを引かせて空を飛ぶのは知っていますね？

音楽に合わせて、踊りながらトナカイ達が出てくる。

トナカイたちは歌いながら、赤鼻のロバートを囲み馬鹿にする。

You know Dacher and Dancer and Prancer and Vixen,

Comet and Cupid and Donner and Blitzen.

But do you recall the most famous reindeer of all?

ロバート

どうして僕は、みんなと違うんだろう。

ルドルフ

舞台は1930年代後半のアメリカ・シカゴ。ここに、ロバート・メイという一人の男が住んでいました。彼は通信販売も手掛ける百貨店、モゴメリー・ウオード社で宣伝原稿を書く仕事をしていました。

ルドルフ

この頃のアメリカは、世界恐慌から始まった不景気から回復しつつも、未だ苦しい状況が続いていた時代。ロバートの暮らしも当然貧しく、安い給料で毎日遅くまで働かなければなりませんでした。そんな彼には、2つの宝物がありました。

エヴリン

おかえりロバート。

ロバート

ただいまエヴリン。バーバラはもう寝ちゃった？

エヴリン

ええ、よく寝てるわ。

ロバート

そうか、じゃあプレゼントは明日起きたらだな。

ルドルフ

それは妻エヴリンと、生まれたばかりの娘バーバラ。この2人の為に、彼は毎日一生懸命働いて、貧しくも幸せな日々を送っていました。

エヴリン

ねえロバート。今日ね、病院に行ってきたの。

ルドルフ

それは、バーバラが2歳になった時のことでした。

ロバート、持っていたデイベアを落とす。

気丈に振る舞うエヴリンを、抱きしめるロバート。

ルドルフ

とても悲しいことに、エヴリンは癌に冒されていました。ロバートは治療費を得るために手を尽くしました。しかし、得られた金額は僅かなもので、少しの蓄えもあつという間に消えていきました。売れるものはすべて売り、毎日夜遅くまで働き、寝込むエヴリンに代わって家事やバーバラの面倒も全て一人でこなしました。しかし、ロバートの想いも空しく、エヴリンの容体は日増しに悪くなり、とうとう2年後にはベットから起きることも出来なくなりました。

寝込むエヴリンにスープを飲ませるロバート。

ロバート

熱くない？おいしい？

エヴリン

ありがとうロバート、とってもおいしい。自分で食べれるから置いておいて。

ロバート

でも。

エヴリン

それよりあなたも少しは休んで。ずっと動きっぱなしで……あなたまで身体を壊してしまうわ。

ロバート

僕は大丈夫。

エヴリン

休んで。

ロバート

……わかったよ。

ロバートはエヴリンのそばから離れる。すると娘のバーバラがいる。

ロバート　　バーバラ。どうしたの？

バーバラ　　どうして私のママは、みんなと違うの？

ルドルフ　　4歳になったバーバラは尋ねました。

ロバート　　どうして……？

バーバラ　　どうしてママは、ずっとベットに寝たままなの？

ロバート、バーバラを抱きしめる。

ルドルフ

「せめてこの子の笑顔を守ってあげなくちゃ。この子を幸福にしてあげなくちゃ。なんて返そう。何て言ってあげよう。幸せな気持ちになれる何かを」

バーバラ　　どうして私のママは、みんなと違うの？

ロバート　　どうして、どうして……それは……、……僕が貧しいコピーライター

だからだ。

ロバートは自身の幼い頃の記憶を呼び起こしていた。

同級生①　　やーい！マヌケのロバート！

ロバート　　すまないバーバラ！これまで母親に十分に甘えさせてやることもできなくて、たくさん我慢させてしまつて。

同級生②　　チビでヒヨロヒヨロのロバート！

ロバート　　僕の給料が少ないから、君のお母さんにろくな治療を受けさせてあげれない、十分な薬を買ってあげられない。

同級生③　　バカでノロマのロバート！

ロバート　　僕が貧しくて進学できなかったから、僕がいじめられてたから、僕がこんな人間だから、僕がダメな人間だから！

エヴリン　　やめなさい！

エヴリン　　どうしてみんなロバートのことを馬鹿にするの？この間の授業で書いた作文、ロバートのが選ばれて、市の作文コンクールで賞もとって表彰されたじゃない。みんな読んでないの？

ロバート　　いいんだよエヴリン。チビでノロマでヒヨロヒヨロで、みんなの言う通りだ。

エヴリン　　でも馬鹿にするのは間違つてる。ロバートには作文の才能があるのに。エヴリン、どうして君は、こんな僕なんかも優しくしてくれるんだ。

エヴリン　　それはあなたが強くて優しいから。
ロバート　　僕が？

バーバラ　　パパ。

バーバラがこつちを見ている。今。あの時のエヴリンの言葉が響いてくる。

エヴリン　　あなたは他のみんなとは違う、あなただけの素敵なものを持つてる。
ロバート　　僕だけの、素敵なもの。
エヴリン　　あなたはそれを使って、たくさんの人を幸せにすることができる。
ロバート　　たくさんの人を。
エヴリン　　信じて。あなたは特別。

エヴリン、ロバートに勇気を与える。背中を押され、娘に向かうロバート。

ロバート　　いいかい、むかしむかしのことだよ。ルドルフ、っていう名前のトナカイがいたんだ。ルドルフは、世界にただ一頭しかいない不思議なトナカイだったんだ。どうしてかというと、それはね。ルドルフは、なんとでっかい、真っ赤なお鼻をしていたからなんだ。だからね、あだ名はもちろん『赤鼻のルドルフ』だったんだよ。

トナカイたちがルドルフを囲み、馬鹿にして遊んでいる。

ロバート　　ルドルフはね、自分の鼻のことでもいつもとっても悩んでいたんだ。だって、みんな自分を見て大笑いするし、仲間外れにする。ルドルフはいつも悲しくて悲しくて仕方なかったんだ。

ダンサーが現れる。

ダンサー　　やめなさい！

ダンサー　　どうしてみんなルドルフのことを馬鹿にするのよ。
ドンダー　　どうしてだって？こいつが赤っ鼻だからに決まってるだろ！

トナカイたち、笑う。

ダンサー　　やめなさいって！
プランサー　　あつれえ〜どうしてそんなにルドルフのことかばうの〜？
ヴィクセン　　もしかしてダンサー、ルドルフのこと好きなんじゃないの！？
ダンサー　　ばっ……！な訳ないでしょ！違ったら！

ダンシヤーが現れる。

ダンシヤー　　もうその辺にしとけよ。

コメット
ドンダー
ダッシャー
ドンダー
はいはいわかったよダッシャー。
ほんの冗談じゃないか。俺たちはただ、そう遊んでただけだよ。
そうか？
いこうぜ。

トナカイたち、行ってしまう。

ダンサー
ダッシャー
ルドルフ
ダッシャー
ダッシャー
ダッシャー。
ダッシャー。
ダッシャー。
ダッシャー。
顔を上げるよ。何も恥ずかしくはないだろう。

ダッシャー、行こうとするのをルドルフが呼び止める。

ルドルフ
ダッシャー
ルドルフ
ダッシャー
ルドルフ
ダッシャー
ルドルフ
ダッシャー
ルドルフ
ダッシャー
えー！もう行っちゃうの？
バカ！2人きりにさせてやってんだろなんで呼び止めるんだよ。
でも……
それで、ダンサーには好きって言えたのかよ。
言えないよ……
なんだよまだ言えてないのかよ。
無理だよ。
どうして。
だって、もし迷惑に思ってたなら。
自分のこと好きだって思ってくれるのが迷惑なのか。嬉しいことだろ。
それは確かにそうだけど、でも僕は、今のこの関係を崩したくないっ
ていうかも、好きって言ったなら、関係が崩れちゃうんじゃないか？
お前とダンサーの関係はそんなに簡単に崩れちゃうようなもんなのか？
お前の好きな人もトナカイは、お前が好きだって伝えたくらいで、お前のことを嫌いになっちゃうような心の狭いトナカイなのか。
そうじゃないけど。
結局、お前はただ怖いだけだろ、自分が傷つくのが。
ねえなに2人でこそこそ話してるの。
お前には関係ねえよ。
あーひどいその言い方。
男同士の秘密の話なんだよ。じゃ、ルドルフしっかりやれよ。
ダッシャー。
えーもう行っちゃうの？
生憎暇じゃないんでね。ルドルフ、お前の親父はとても勇敢で偉大な
トナカイだった。忘れんなよ。

ダッシャー、行ってしまう。

ダンサー
ルドルフ
なによ、男同士の秘密の話って。

ダンサー
ルドルフ
ふうん。ルドルフも内緒にするんだ。

ダンサー
ルドルフ
本当に、たいした話じゃないから……。

ダンサー
ルドルフ
ふうん？

ダンサー
ルドルフ
あの……

ダンサー
ルドルフ
まあいいわ。

ダンサー
ルドルフ
ねえ、さっきダッシャーも言ってたお父さんのこと。
うん。

ダンサー
ルドルフ
私たちが生まれる前のクリスマス。ほんの少し先さえも見えない大雪
の中、あなたのお父さんはサンタのソリを牽き、プレゼントを配って
回った。

ルドルフ
でもその帰り道、木の枝につまづいてバランスを崩し、そのまま勢い
よく看板にぶつかって首の骨を折って死んだ。僕のお父さんをドジで
間抜けだって笑うトナカイもいる。

ダンサー
ルドルフ
そんなの言わせておけばいいのよ。あなたのお父さんは私もダッシャ
ーも尊敬してる。とても素晴らしいトナカイだったわ。

ダンサー
ルドルフ
お父さんはね。僕のことじゃない。
もう卑屈にならないの。あなただってなれる。お父さんみたいな勇敢
なトナカイに。

ダンサーの月明かりに照らされた横顔がとてもきれい。

ロバート
ただいまエヴリン。

エヴリン
ロバート
おかえりロバート。

ロバート
エヴリン
具合はどう？

エヴリン
ロバート
今日はなんだか調子がいいの。どうしてかしら。

ロバート
エヴリン
満月だからかな。帰ってくる時とってもきれいだった。

エヴリン
ロバート
いいな、私も見たい。

ロバート
エヴリン
大丈夫？

エヴリン
ロバート
平気だって。今日は調子がいいの。

ロバート
エヴリン
無理しないでね。

ダンサー
ルドルフ
見て。今夜は月がとってもきれいよ
本当だ。

エヴリンをベットに腰掛け、カーテンを開ける。月明かりがエヴリンを照らす。

エヴリン
ロバート
きれいね。とってもきれい。

ロバート
エヴリン
ああ。とってもきれい。

ロバート、エヴリンに寄り添い、

ロバート 毎年クリスマスに、うちの会社で、子供たちに無料で配るぬりえの冊

子をつくってるだろう。それに載せる詩を頼まれた。

エヴリン すごいじゃないロバート。

ロバート ああ。ちょうどそれでルドルフの話をしたら、会社のみんな気に入って来て、それで行こうってなって。今までバーバラに話して聞かせるだけだったから。ちゃんと文字にしてまとめなきゃいけない。

エヴリン あなたの物語が、沢山の人に届くのね。

ロバート ああ、それで、ルドルフの話を、絵本にしようと思うんだ。今年のクリスマスプレゼントに。何も買ってあげられないけど、それなら、紙とペンがあればつくれる。

ロバート どうかな。

エヴリン 良いと思う。

ロバート 本当に。

エヴリン 本当に。世界に一つだけの、とっても素敵な贈り物だわ。バーバラの喜ぶ顔が目につかぶ。

ロバート ……それ以上にバーバラが喜ぶのは、君が良くなる事だよ。

エヴリン ……そうね。

ルドルフ ねえダンサー。

ダンサー なあに？

ルドルフ やっぱりなんでもない。

ダンサー えーなあにー？

ルドルフ なんでもないんだ。

ダンサー 本当に。

ルドルフ 本当に。

ダンサー ねえルドルフ。

ルドルフ なに。

ダンサー ダッシャーって、何色が好きかなあ？

ルドルフ ……ダッシャーが？

ダンサー ほら！私！今年から2番目になったじゃない？ソリを牽くの。ダッシャーの隣。だからほら、なにか、プレゼントしようかなって、よろしくって意味も込めて……。

ルドルフ 好きなの？ダッシャーのこと。

ダンサー ……うん。好き。

ロバート 神様は僕たちの事なんか見ちゃくれない。

エヴリン そんなこと言わないの。

ロバート エヴリン、どうして君は僕なんかと結婚なんてしたんだ。

エヴリン
ロバート
私はあなたといられて幸せよ。
僕もだよ。エヴリン、僕は君に、生きる意味と、生きていく勇気を与えてもらった。

エヴリン
ロバート
愛してるわ、ロバート。

僕も愛してる。エヴリン。

やっぱりダッシャーみたいじゃなかったこいイトナカイが好きだよね。

ロドルフ
ダッシャー？

ロドルフ
僕は知らないよ。ダッシャーは何色だつてどんなものだつて喜んでくれるさ。

ダンサー
でも

ロドルフ
何色が好きかなんてダッシャーに直接聞けばいいじゃないか！

ダンサー
ロドルフ、どうしたのどこいくの？

ロドルフ
1人になりたいんだ！

ダンサー
ロドルフ！どうして急に

ロドルフ
いいから！あっち行ってくれ！もう放っておいてくれよ！

ダンサー
ねえロドルフ待って

ロドルフ
いいから行けよ！もう僕なんか構わないでくれ！

ダンサー、ロドルフを置いていってしまう。ロドルフ、泣き出す。

エヴリン、ロバートの腕の中でひっそりと息を引き取る。

ロバート
エヴリン？……エヴリン……ああ、うああ、うおおおおおおお！

ロドルフとロバートの叫びを吹雪がかき消していく。

クリスマスイブの晩。大雪を目の前にするトナカイ達。

プランサー
ひどい雪だ。

コメット
ほんの少し先すらも見えない。

ドンダー
クリスマスイブにこんな大雪なんて初めてだ。

キューピット
いや、何年も前に同じような大雪のクリスマスがあった。そこでロドルフのお父さんは……。

ヴィクセン
これじゃ、子供たちにプレゼントを配れないよ。

社員①
これじゃ、子供たちにぬりえを配れません。

社員②
ロバートの詩が全然書きあがらないんだ。

社員③
これじゃ肝心の絵が描けない。そしたら印刷にも出せない。

社員④
いくら奥さんが無くなって哀しみに暮れてるからといって、我々もいつまでも待つわけにはいかない。

社員⑤
別の人間に任せましょう。ロバートはもうだめです。

上司
いや。今年のぬりえの詩は、ロバートに書いてもらう。

ダッシャー、外へ行こうとする。

プランサー　ダッシャー、どこいくの？

ダッシャー　決まってるだろう。プレゼントを配りにさ。

ドンダー　何言ってるんだよ！

ダンサー　危険だよ。危険すぎる。ほとんど何も見えない中で走るのよ。

ダッシャー　それでも行くんだ。行かなくちゃいけない。世界中の子供たちがプレゼントを待っているんだ。

ダンサー　でもそれで、ルドルフのお父さんは！

ダッシャー　大丈夫。うまくやるさ。

ダンサー　うまくやるって、そんな根拠もないこと言わないで！

ダッシャー　だったらこのままプレゼントを配れないでいいのか！？あしたの朝に

なって、世界中の子供たちが、サンタクロースが来なかったって言って悲しむことになるんだぞ！それでもいいのか！

ダンサー　そうじゃないけど！

上司　ロバート。君はこのルドルフのお話を、書き上げなければいけない。

ロバート　ですが……

上司　見なさい。

上司が示す先には、一歩踏み出すことのできないルドルフが震えている。

上司　このままでいいとは思わないだろうか？

ロバート　僕は……他のみんなとは違う、僕だけの素敵なものを持つてる。僕はそれを使って、たくさんの人を幸せにすることができる。

ロバート　信じて。君は特別。

ニコラウス　ルドルフ。こんな吹雪の日には、君のその真っ赤な鼻が必要だ

ルドルフの鼻を押すニコラウス。すると彼の鼻が光り出す。

ダンサー　そうよルドルフ！ルドルフのそのピカピカの鼻なら、この吹雪の中で

も、進む方向を照らしてくれる！

皆口々に「そうかルドルフなら」「あいつの赤っ鼻がこんな風に役に立つとは」

ニコラウス　子供たちにプレゼントを配るために、一緒に行ってくれぬ？

ダッシャー　ルドルフ

ルドルフ　僕行きます！僕のこの鼻がみんなの役に立つのなら、喜んで。

みんな口々にルドルフを称える。

ニコラウス

ありがとうルドルフ。とはいえこの吹雪だ。危険なことに変わりない。みんなもいいね。

トナカイ達

(力強い返事)

ニコラウス

さあ、出発だ！世界中の子供たちのところへ！メリークリスマスマス！

トナカイ達

メリークリスマスマス！

トナカイ達はソリを牽き、吹雪の中に飛び出して行く。

上司

ロバート！君の赤鼻のルドルフの塗り絵はお客様に大好評だ！大忙しで人手も足りなくて、私までこうして配っているところだ。

ロバート

ああ、だからそんな格好してるんですね。

上司

それから、我が社はこの「赤鼻のトナカイ」を本にして、世界中の人に紹介したいと思っている。

ロバート

本当ですか！？

老人

それから後の話は、貴方達もご存じの通り。ルドルフは世界中で愛される、世界で一番有名なトナカイになりました。たとえほかの人や動物と違っていても、みんな神様に創られた生き物なのだから、いつかきつと奇蹟が起こり、幸せになることが出来る。ロバートはそのことを、ルドルフを通して幼い娘に伝えたかったのでしょうか。

老人

え？こんな日もルドルフは大活躍ですわねって？いえいえ。今はもう、サンタクロースはプレゼントを配っていませんよ。昔とは違います。今は子供の数も増えました。サンタクロースだけで一晩のうちにプレゼントを配り切るなんてもうできません。何より今の子どもたちが欲しがっているのは、サンタクロースにはつくれませんから。今の子どもたちはお人形やブリキのおもちゃなんて欲しがりません。時代ですわねえ……じゃあサンタクロースはもういないのかって？いえいえそんなことはありませんよ。サンタクロースは、います。正確には……サンタクロースの代理が、ですが。サンタクロースの代わりに子供たちの欲しがっているものを製造する人、そのプレゼントを運搬する人。綺麗に包装して渡す人、そして、それを寝静まった子供の枕元にそっとおく人。それまでわた……サンタクロースが全部やっていた仕事を、たくさん代理の人たちが、少しずつ分担して請け負ってくれているんです。もちろんあなたも、誰かに幸せを届けるサンタであり、また、自分だけの特別なものを持つルドルフでも、あるんですよ。

幕。

終演後。香、帰り支度を完了してアンケートを読んでいる。典子来る。典子は舞台メイクを落とし通常メイクの途中である。

典子 わ！

香 わ！なんですか！

典子 おつかれ。

香 お疲れ様です。

典子 アンケート？

香 はい。

典子 アイリ来てたね。

香 来てましたね。

典子 見た？

香 見ました。

典子 めっちゃニコニコしてたね。

香 なんか逆に怖かったです。

典子 いた時あんな顔したことなかったもんね。

香 ですね。なんか、加九先輩も必死だったんだなって思いました。

典子 どういうこと？

香 絵里奈先輩も青ちゃん先輩もそうですけど、いっぱいいっぱいって

うか、必死だったんだなって。

典子 だからって、人に当たっていいわけじゃないだろ。

香 そうですけど。あ、加九先輩のアンケート読みます？

典子 えマジで？アイリアアンケート書いてんの？

典子 うそくせー！！！！

香 ですよ！信じられます？

典子 本当に？

典子 そっか。

香 なんですか？

典子 多分本心なんだろうなと思って。

香 ……そうですね。思ってもないこと書く人じゃないですよね。

典子 まあそうですね。

帰り支度を終えた歩と桂が来る。

桂 あーアンケート？私も読みたい。

香 はい。

典子はしれっと控室に戻る。

歩

……何してたの？

香

え？別に話してただけだけど。

歩

何を？

香

え、いや、加九先輩来てたねって。

歩

なんで？

香

いやなんでって言われても。

桂

てかそういえばさ、テニコ先輩と津国先輩別れるっぽいよ。

歩

えなにそれどこ情報？

桂

開場前にテニコ先輩と絵里奈先輩それっぽいこと話してた。ね。

香

え？ああうん。わかんないけど。

歩

なんだ。

桂

チャンスなんじゃない？

歩

いやいやないない無理無理。

桂

なんで。

歩

うちのクラスのアリエルの話したでしょ。

桂

ああサッカー部マネージャーの。先輩から彼氏奪ったんだっけ。

歩

そ。でその先輩テニコ先輩と仲良くて、みんなぶちぎれてテニコ先輩

桂

含む何人かに囲まれたって。

歩

こわー！まじ？

桂

有り得ないでしょ？

香

いやアリエルでしょ？

桂・歩

ん？

香

なんでもない。

桂

でもさーそれって盗られる方も悪くない？

歩

そうかもしれないけどさ。でも私アリエルほど心臓強くないから。

桂

どゆこと。

歩

だって考えてみなよ。同じ部活に元カノと今カノいたら。

桂

いや〜〜無理無理！いれないいれない！

絵里奈

でもまあ4月でうちらも引退だし、そもそも歩には関係ないでしょ？

歩

はーいそうですね。

琥珀と若菜来る。

若菜

絵里奈ー。ごめんね。

絵里奈

え何急に。

若菜

いやなんか、全然演出のイメージ通りにできなかったと思うし、迷惑

絵里奈

かけたなって。

絵里奈

そんなことないよ。出てくれてありがとね。むしろこっちこそごめん

絵里奈

ね。なんかギスギスしちゃってて。

若菜

ううん楽しかった！

絵里奈

ほんとに？

若菜

なんで疑うのさほんとだって！演劇できてよかった。

絵里奈

でも色々思うことあったでしょ。

若菜

まあそれは。

琥珀

何？

若菜

明日言うよ。

絵里奈

いや今言つてよ。

若菜

えーんーじゃあまあ……私も県止まりだから人のこと言えないけどさ、

上の大会に勝ち上がりりたいならもつと努力しないといけないんじゃないかな
いとは思ったよ。

冬馬

すいません。

若菜

え何どした急に。

冬馬

いやなんか聞こえたので。もつとがんばります。

若菜

いやなんか偉そうにごめん。

ゆかり来る。以後、続々と来る。

ゆかり

おつかれさまー。

一同

お疲れ様です。

ゆかり

ねえねえあの絵里奈。

絵里奈

なんですか。

ゆかり

ダメは元々なんだけどさ、今日クリスマスイブじゃん？

絵里奈

まだ何も言っていないじゃん！

ゆかり

言わなくてもわかりますこれからデートで彼氏待ってるから先帰って

絵里奈

いいかってことですよね！

ゆかり

ケチ。硬いなあ。真凜みたい。

絵里奈の張っていた何かが切れる。

絵里奈

だから私は演出なんかやりたくなかったの！ってか副部長もやりたく

琥珀

なかったんですよ！！！！

絵里奈

絵里奈、落ち着いて。

私はゆかり先輩みたいに役者に専念してやりたかったんですよ！でも
琥珀が部長でフォローしてやってって言われたら私がしつかりするし

ゆかり

かないじゃないですか！

絵里奈

だったら、アイリが演出やってた時にもつとフォローしてあげなきゃ

絵里奈

いけなかったんじゃない

絵里奈

あー！ー！ー！ー！！！！

絵里奈

そうですよ私が悪いですよ！演出やってわかりましたよアイリがどれだけ大変でいっぱいだったか！思うようにいなくて焦って小さなことでイライラして誰も助けてくれなくて孤独になってました思うようにいなくなつての悪循環で！痛いほどわかりましたよ！アイリがどれだけ助けて欲しかったのか！私が助けてあげなきゃ行けなかったのに私が助けられなかったからアイリはやめたんですよねそうですねわかってますよ！

琥珀

絵里奈ごべんごべん！！！！！！！！！！

絵里奈

うあ~~~~琥珀うもつとしっかりしてくれええ。

ゆかり

琥珀は琥珀でがんばってるよ。

深幸

あーもゆかり先輩ちよつと何も言わないで！

絵里奈

知ってますよ~~~~！！琥珀だって必死だし私だって必死だしアイリだって必死だったんですよお~~~~！！

典子

あーはいはいはいはい。

冬馬

先輩これどうぞ！（あめあげる）

雄飛

とりあえず、解散しよーぜ。

深幸

みんないる？

レミが外から戻ってくる。

レミ

遅くなつてすみません。

冬馬

どこいったの？

レミ

アイリ先輩と話してました。

若菜

加九ちゃんなんて言ってた？

深幸

はいはいあとあと。

敬太

とりあえず支度する前にミーティングするつて。

レミ

はいすみません。

深幸

アンケートももう明日にして。

ミーティングの円陣になる。

琥珀

えーはい、本番お疲れ様でした。えーと、明日はバラシをして、軽く

一同

反省会して、その後クリバします。

深幸

先輩達からお菓子の差し入れいただきましたり！！

一同

（歓喜）

琥珀

年明けからは、春フェス（横浜市高等学校春季演劇発表会）に向けて

歩

動き始めるので、明日その話もします。

歩

すいません、明日バイトなので来れないです。

冬馬

えなんで？

歩

えなんでつて？

冬馬

えなんでバイト入れてんの？

歩
冬馬
いやクリスマスだから人足りてなくて。
いやそうじゃなくて本番の次の日バラシって決まってるじゃん。

歩
ごめんなさい。

冬馬
いやごめんなさいじゃなくて。

冬馬
いいよもう。他来ない人いる？……いないね？はいじゃあ来る人

冬馬
はよろしく願います。今日は帰ろう。

冬馬
それじゃ解散します。

冬馬
あごめん！2年はちよつと残ってください。

冬馬
私も？

冬馬
あいや、若菜はいいです。

冬馬
それじゃ解散します。お疲れ様でした！

冬馬
お疲れ様でした！せーの！解散！

ゆかり、ダッシュで帰る。歩、桂、香も帰る。

レミは帰り支度をしに控え室へ。

敬太
ゆかり先輩帰るのはっや。

敬太
これからデートですつてよ。

敬太
ああなるほど。

敬太
最後のクリスマスですもんね。

敬太
まあ高3だしな。

敬太
いやそうじゃなくて、ゆかり先輩別れるんでしょ？

敬太
えそうなの？

敬太
いやゆかり先輩大学大阪じゃないですか？でも彼はこっちだから、

敬太
遠距離無理っていつて卒業したら別れるって聞きましたよ？

敬太
えーなにそれ。

敬太
てかなんで冬馬が知ってるの。

敬太
俊平先輩情報です。

敬太
理解。

敬太
でもあれだね。最後のクリスマスってわかっててデートするのってど

敬太
うなんだろ。

敬太
どういうこと？

敬太
いや、なんか寂しくならないのかなって。

敬太
逆に思い出に残そうって楽しくするんじゃない？

敬太
なるほど。

敬太
あんたはいいの？

敬太
さあ。

敬太
いや2年残れっていったのお前じゃん。

敬太
2人は？

敬太
俺はドラミ待ちです。

敬太
いやあの、1年は聞いちやダメなやつですか？

絵里奈 いやまあだめじゃないけど。
若菜 じゃあ私は帰るね。おつかれー。

若菜、帰る。

絵里奈 えっと、まあ単刀直入に結論だけ言うと、歩が辞めます。
一同 (反応) (誰か絶対、ほへーって言って)

絵里奈 本当は明日本人の口から直接言うはずだったんだけど、来ないって言うから。

冬馬 いやそれはないわ。

深幸 それはもう確定？

絵里奈 まあおそらく。

典子 なんて言ってくれなかったの？

絵里奈 だって本人から言うなって言われたら黙っとくしかないでしょ。

典子 そうだけど。

琥珀 説得はしたの？

絵里奈 いやまあしたけどさ、ごめん途中で馬鹿らしくなって。

典子 なんてこと言うんだ。

絵里奈 だってさ、なんでこんなに必死に引き止めてるんだろうって。歩引き引き止めるくらいならアイリ引き止める方に力使えよって思って。

レミが支度を終えて来る。

敬太 桐島、部活辞めるってよ。

レミ え！？ふーちゃん？

敬太 まあ今日もふーちゃんのクラスの子誰も来てなかったですしね。

冬馬 誰も呼んでないってこと？

レミ じゃない？

冬馬 それはないわ。

雄飛 なんちよっと思っただけさーあの2人も辞めるとかない？

深幸 あーありそう。

典子 いや香ちゃんは大丈夫だと思う。

琥珀 そうなの？

雄飛 なんて？

典子 いやなんとなくだけど。

絵里奈 桂ちゃんは？

敬太 それはわからない。

冬馬 冬馬がいれば辞めないんじゃない？

冬馬 え俺？

深幸 えなにそれ。

雄飛 冬馬は？

冬馬 敬太
え俺は辞めないっすよ。俊平先輩から餉あげる係任命されましたし。だよな。

冬馬 敬太
てゆーか、歩はなんで辞めるんですか？
そうだよ。理由は聞いてるの？

冬馬 敬太
んーまあ、バイト忙しくて迷惑かけるからって。
まさにじゃん。

冬馬 敬太
でもそれって嘘ですよ。言い訳ですよ。ね。
演劇嫌いになった？

冬馬 敬太
いや、演劇は好きだった。
じゃあ私たちが。

冬馬 敬太
いや別にそこまで言っただけはなかったけど。
まあでもここにはいれないってことだろ。

冬馬 敬太
でも結局明日来ないからちゃんと挨拶もしないでなあなあにして辞めるんだろ？

レミ
いいよ冬馬。本当は辞めるのに理由なんてなかったっていいんだ。理由なんて自分や周りを納得させるための言い訳だよ。でも別に、納得なんてしなくていいんだ。辞めるもんは辞めるんだ。

敬太
それ、アイリ先輩にも同じこと言えるってわかってる？
わかってる言っただけで気づいた。

敬太
そんな感じで、ごめん。
えりなが謝ることじゃないよ。

雄飛
まあとりあえず、あの2人が一緒に辞めないことを願おう。
それしかないね。以上？

深幸
それで言っとくと、私もう……演出やりたくないです！
ごーめーんーて！

深幸
もーほんとにおまえらふざげんな！演劇部は部活内恋愛してはいけない
い部活ランキング圧倒的第一位だから異論は認めん！

深幸
すいません。
おら！お前ら2人もとっととクリスマスデート行ってしまえ！たった
一度きりのエロの冬を満喫しろ！

深幸
やめろー！
あーもーあー！てか見た？団君とレイナ一緒に来たの！

深幸
見た！
見た見た！絵里奈、ドンマイ！

深幸
なんですかなんですか。
いや絵里奈がリアルダンサーされた話。

深幸
リアルダンサー？
気になってた男子に、他の女子の好みとか相談されちゃってね。

深幸
うわー。
ぐあー！

深幸
その相手が団さんと。

冬馬 団さんにダンサられたんですね。
雄飛 ダンサるってなんだよ。
琥珀 で、その2人が一緒に見にきたんだね。
絵里奈 琥珀？
典子 良いぞ琥珀もつといけ。
絵里奈 おい！
琥珀 絵里奈、メリークリスマス。
敬太 メリークリスマス！
絵里奈 うるせええええええ！
一同 (笑う)

典子 帰ろ。
深幸 次で引退かー。
絵里奈 早。
雄飛 一個上が夏までいたからね。
琥珀 あつという間だったなー。
雄飛 まだ終わってないけどな。
絵里奈 終わってみないとわかんないよね。
典子 てか次どうする？
深幸 どうするって？
典子 演出。
雄飛 それ明日話すんでしょ？
敬太 ドラミやれば？
レミ 演出も？
絵里奈 まあいいよいいよ明日明日。帰ろ帰ろ。

みんなが出口に向かう。

敬太 あれ俺スマホどうしたっけ。
冬馬 えーまじー？
レミ 見て来る？
敬太 ちよつと行ってきます。
雄飛 ほんと敬太ってそう言うやつだよな。
レミ そしたら鍵私返しておきます。
琥珀 じゃあお願いしていい？

琥珀、鍵をレミに渡す。

2年生 じゃあ先帰るね。おつかれー。
レミ お疲れ様です。
冬馬 あ俺教室に取りに行くもんあるから先行ってるわ。

レミ わかった。

冬馬 2年生たち出ていく。敬太戻ってくる。

レミ あった？

敬太 ありました。

レミ よかったね。

敬太 えみんな帰った？

レミ 冬馬は教室寄ってくって言ってたから待ってると思うよ。

敬太 そっか。

敬太 帰らないの？

レミ 帰りたくない。

敬太 ……その台詞は今じゃなくてこう、デートの最後とかに使う方がうるさいな。帰るよ完下までには。

敬太 アイリ先輩に何言われた？

レミ 私居なくても平気だね。つて。

敬太 あははー。

レミ あたりめーだろ！居なくなっても平気なように残った人達がんばったの！

敬太 がんばったかも不明だし平気かどうか危ういけどな。

レミ それはそうだよ何もかも無傷なわけないじゃん。

敬太 まあそりゃそっか。

レミ でも演劇部は続いているし公演もできてる。

敬太 抜けた人には残った人の苦労なんてわかりっこないよな。

レミ てゆーか興味ないだろうしそんなこと考えてないよ。

敬太 そうな。深幸先輩がどの面下げて観にくんの？つて言ってたけど、それに関しては正直否定できないし。うん。

窓から月が見える。(下手側)

敬太 なんかさー、月見てるシーン、実際にそこ(暗幕)開けてやってもよ

かったかもな。

レミ 確かに。いやでも流石にないよ。てか月見るシーンあっち(上手側)

だし。

敬太 そっか。

レミ おもしろかったつて。

敬太 アイリ先輩？

レミ うん。
敬太 うんまあ、俺もそう思うよ。
レミ アイリ先輩だけ気づいてくれた。上司のこと。
敬太 上司のこと？
レミ なんてサンタクロースが上司役もやってるかわかってなかったの？
敬太 えなにそれ全然ただキャストが足りてないからやることにしてたんだとばかり。
レミ ちがいますー。
敬太 じゃあ何で？
レミ 自分で最後に言ってるじゃん。「あなたも、誰かに幸せを届けるサンタである」って。
敬太 うん。
レミ サンタは特別な存在じゃなくて、どこにでもいるんだよ。だからあの時の上司はさ、ロバートにとつてサンタみたいな存在だったってことなるほどね。
敬太 まあわかってもわからなくても別にいいんだけど。
レミ そっか？
敬太 ありがとね。
レミ 何が？
敬太 アイリ先輩が辞めた時、台本書いてみたら？って言ってくれて。いや別にそんな何もしてないよ。
レミ でも敬太が言ってくれたから、決心できたっていうか、やっぱりまだ演劇やってたいなって思えたっていうか。
敬太 それが果たして幸せなのかどうなのか。
レミ 確かに。
敬太 アイリ先輩に言われてたからね。ドラミをよろしくって。
レミ 辞めた時に？
敬太 ううん。中学卒業した時。
レミ そんな前から？
敬太 そだよ。あまあ辞めるときにも言われたけど。
レミ え、もしかしてだからついてきたの？
敬太 いやまあ、アイリ先輩に、一緒にやろうよって言われたのもある。
レミ え私言われてない。
敬太 あこれ言ったらダメなやつか。
レミ ちよつと。
敬太 でも一緒にやろうよって言ったくせに辞めたけどね。
レミ ほんとだね。辞める？
敬太 辞めませんけど。よろしく頼むって言われているので。
レミ よろしくお願ひしますよ。もし私が脚本演出することになったらアイリ先輩みたいになるだろうから。
敬太 確定？

レミ

今回台本書いてみて思ったよ。脚本家ってすごい孤独な作業だった。絵里奈先輩も言ってたけど、演出も多分おんなじなんだと思う。

敬太

そうなんだろうな。

レミ

なんていうか、3年生は、青ちゃん先輩とゆかり先輩のバランスが良かったんだろ。でも、アイリ先輩にはそれが居なかった。

敬太

うん。

レミ

ほんと頼むね。

敬太

がんばります。

レミ

はー。ふーちゃん辞めんのかあ。

敬太

将棋ーズも解散かあ。

レミ

なに将棋ーズって。

敬太

え、いやだから、

レミのスマホが鳴る。電話に出るレミ。

レミ

もしもし？うんまだ部屋。あああったよ。今出るところ。あそうなの？

敬太

うんわかったすぐ行くね。

レミ

冬馬？

敬太

うん。なんか桂ちゃんと香ちゃんもいるって。

レミ

そっか。

敬太

さ、いこ。

敬太

世界中の子供たちのところへ？

レミ

メリークリスマス！

敬太

メリークリスマス！

2人、出ていく。

演劇が好きだ時には辛くなることもあるけど演劇が好き。幕。